

平成22年度子ども向けものづくり講座 「紙でくつをつくる」実施報告

富山大学芸術文化学部助教 ペルトネン 純子



●講座概要

日時：平成22年8月10日（火）10:00-15:00

対象：小学生

募集人数：20名 参加人数：15名（保護者含む）

場所：富山大学高岡キャンパス 共通実習室

参加費：50円（傷害保険料）

スタッフ：指導／ペルトネン純子

学生アルバイト／西恵理華、則本成貴、

藤沢瑤子、守田詠美

支援チーム／芸術文化系研究協力チーム

講座の趣旨：

- ・日常で使用する靴を題材にすることで、身近なものづくり方やデザインへの興味を養う。
- ・普段使い慣れた素材や道具を用いさせながらも、普段よりも繊細な使い方を体験させる。
- ・用いる紙の模様が靴のデザインに大きく影響することを理解させ、色彩や模様の構成力を養う。

●実施内容

1. 準備

<8月2日（月）9:00-12:00 試作会>

指導者、学生アルバイト、支援チームによる、試作会を行った。試作会では、実際の制作体験を通して、子どもたちへの指導過程の想定、指導ポイントの理解、必要な道具の確認などを行った。この結果、事前に型紙を用意しておくことになった。

<8月6日（金）10:00-10:30 打ち合わせ>

開催当日のスケジュール確認、使用予定物品の最終確認を行った。特に、熱中症対策として、飲料の準備及び水分補給を随時行うように促すアナウンスをすることを確認した。

[開催当日のスケジュール]

9:00 講座会場準備、受付設置、飲料等の設置

9:45 受付開始

10:00 開講式

10:15 制作

12:00 昼休み

13:00 制作

14:30 お披露目会

14:45 閉講式、記念撮影

15:00 片付け

<8月9日（月）9:00-12:00 型紙作成>

型紙の種類は、学生アルバイト1人に対して1種とし、合計4種の型紙を5枚ずつ用意した。

2. 当日のようす

①型紙を選ぶ

スニーカー、ストラップパンプス、サンダル、オープントウパンプスの4種の中から好きなものを1つ選択してもらった。その結果、スニーカー3名、ストラップパンプス8名、サンダル1名、オープントウパンプス2名となった。ストラップパンプスの型紙が足りなかったため、急遽3つの型紙を制作。また、本講座での靴制作は、片側のみの制作であることを説明。

②紙を選ぶ

「紙の靴」に用いる紙は、持参してもらった紙以外に、大学で用意したポスター等の紙の中から選択してもらった。使用する紙は、張りのある固めのものがよく、薄いものや柔らかいものは、あまり向かないことを説明。

③使用道具

型紙、鉛筆、カッター、鋏、両面テープ、カッティングシート、ヘラ等を使用。

④型紙をもとに紙に形を書き写す

紙を切り抜いた時に、残したい模様や色が出てくるように型紙を紙の上に固定し、鉛筆で丁寧に書き写す。接合していく時に必要となるノリシロを忘れずに書き記すことを説明。

⑤切り抜き

書き写した形をカッターか鋏で切り抜く。早く綺麗に切るために、各自自分の好みで鋏とカッターを使い分けることを説明。また、立体的なカーブをつくるためには、ノリシロ部分に多くの切れ込みを入れる必要があることも説明。

⑥接合

事前に制作しておいた「紙の靴」を参考に、切り抜いた材料を順番に接合していく。また、各自で考えた装飾を施してもよいことを説明。

3. アンケート

アンケートには、㉗性別、㉘学年、㉙この講座を知ったきっかけは？、㉚講座の時間はどうでしたか？、㉛楽しかったこと、むずかしかったところなど自由に書いてください。㉜他にやってみたいものづくりはなんですか？ という質問が書かれている。

	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜
(a)	男	小6・保護者	HP	ちょうど	紙と紙をきれいにくっつけるところが、むずかしかった。	やきもの（とうげい）
(b)	男	小5	ともだちからきいた	ちょうど	書いて切る。	絵とねんど
(c)	男	小5	HP	ちょうど・長い	すべてがむずかしかった。	特に無い
(d)	女	小5	ともだちからきいた	ちょうど	カッターであなを切りぬくのがむずかしかった。好きながようしでくつをつくれたので楽しかったです。	紙でかばんをつくってみたいです。それとアクセサリーもつくりたいです。
(e)	女	小5	知り合いがいた	ちょうど	こまかい作業が、むずかしかったです。	布でなにかつくりたい
(f)	女	小5	お母さんがいっていた	長い	カッターであなをあけるのが、むずかしかったです。じょうずにできてよかった。	アクセサリー
(g)	女	小5	知り合いがいたから	ちょうど	細かく切るところが、とてもむずかしかったです。	アクセサリーをつくらたい
(h)	女	小5	お母さんが言っていた	ちょうど	くつのうちをくつつけるのが、とてもムズかしかったけど、最後まで完成したととてもうれしかったです。	小物などをつくりたいです。
(i)	女	小5	友だちのお母さんから聞いた	ちょうど	こまかくきつて、まげるのがとてもむずかしかったです。できあがったあとは、とてもうれしかったです。	バッグなどもつくりたい。
(j)	女	小5	HP	長い	ぜんたいに	かばん
(k)	女	小4	HP	ちょうど	楽しかったこと→みんなやめたこと→むずかしかったところ→かたがみをつくって、はったりしたこと。	バッグづくり
(l)	女	小3	HP	ちょうど	かたがみを切るところ	カバンづくり、アクセサリーづくり
(m)	女	小2・保護者	知り合いがいたため	ちょうど	こまかいさぎょうが、むずかしかったです。ストラップのデザインを考えるのが、楽しかったです。	アクセサリー作りをやりたいです。

●今後の問題点

募集人数に対して、受講者が少なかったことがあげられる。これは、本講座の周知時期が、開催時期に近かったことが主な原因と考えられる。アンケートから本講座を知ったきっかけについて見ると、HP上での情報発信の重要性がわかった。今後、HP上および地域に周知する時期や方法について検討する余地があると考えられた。

●まとめ

講座の時間を「ちょうどいい」と答えたのは10名、「長い」と答えたのは3名。「長い」と答えた人の感想((c),(f),(j))は、制作時間が余ってしまったために「長い」と感じたのではなく、むずかしいことに取り組む時間として長く感じたと考えられ、小学生が制作する課題として若干難しいものであったことが想像できる。しかし完成した作品を眺めてみると、用意した見本以上の色彩や模様を盛り込んだ作品になっていたことから、若干難しい制作であったが子どもたちの創意工夫を引き出せる講座内容であったと考えている。

また、本講座をサポートしてくれた学生アルバイトの4名は、子どもたちに良い結果をもたらしただけでなく、学生等の経験を通して実感しているものをつくる面白さを伝えることの難しさや楽しさを経験した¹。大学で行うものづくり講座は、学外者の方々へものづくりの機会をつくるだけでなく、スタッフとして参加できる学生にとっても指導という貴重な経験を可能にするため、今後もこのような講座の実施計画を考えていきたいと思う。



受講生の作品

参考文献

1. ペルトネン純子「指導補助者として学生に指導経験をさせる可能性と課題—平成22年度における『こどもものづくり講座』および『教員免許状更新講習』の実施を通して—」、富山大学芸術文化学部紀要（第5巻、pp.134-139）、2011。

GEIBUN オープンエアミュージアム in 環水公園

2010年度と2011年度の取り組み

富山大学芸術文化学部准教授 渡邊 雅志



「HAPPINESS BIRD PROJECT」街灯に設置された鳥（2010）

趣旨

富山県と富山大学は、「富山県と国立大学法人富山大学との連携に関する協定書」により連携協力を行っています。その一環として、富山大学芸術文化学部の学生および教員の作品を、富山県の代表的な公園である富岩運河環水公園に展示する「GEIBUNオープンエアミュージアム in 環水公園」を2010年より開催しています。富岩運河環水公園を利用される多くの市民の方々に、豊かな緑あふれる公園の中で芸術文化学部の作品に触れる機会を提供し、公共空間に現れた様々な作品を通じて、日常にある驚きや楽しさ、そして喜びを実体感していただきたいと考えています。この取り組みが、芸術文化が社会や環境そして人々に豊かな創造性を伝え、日常生活に潤いを与える力があることに気がつき、今後の富山の新しい魅力として繋がっていくことを願っています。

2010年度の取り組み

開催日：2010年9月4日（土）～10月11日（月・祝）

会場：富岩運河環水公園

主催：富山県、富山大学芸術文化学部

出品数：野外展示52点、屋内展示8点の計60点

出品作品：

「平和」

初日のオープニングイベントとして行ったライブペイント。真っ白な三角錐（高さ3M）を2本用意し、大学で絵画を学ぶ学生を中心に1日かけて描く公開制作作品。

石黒千景、竹原美也子、田中大覚、谷直樹、土井彰子、直井昭恵、野村一晟、原田早紀、上地由希子、柏島知昌、作田芳、菅原夏未、中道枝里、針山仁美
安達博文（芸術文化学部教授）、高島圭史（芸術文化学部講師）

「環境造形」

環水公園という環境を考慮した木や金属による作品。
石黒千景、畦地拓海、阿部佑子、宮崎遼、涌井裕介、谷健太郎、田中大覚、尾崎梨紗、西川紗絵子、新谷仁美、

小栗佳那子、松井麻里子、山田佳奈子、中田裕明

「CODON'10-9」

教員作品 後藤敏伸（芸術文化学部教授）

「存在の意味Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」

教員作品 中村滝雄（芸術文化学部教授）

「TOKI/TSU/KAZE」

教員作品 齊藤晴之（芸術文化学部准教授）

「HAPPINESS BIRD PROJECT」

公園内の様々な場所にバードカービングで制作された鳥を17羽設置。地図を片手に散策しながら見つけてもらう趣向。展望塔内には鳥のかたちのカードを用意して、自由に鳥を描いてもらうブースも設けた。集まった鳥のカードは700枚。

畦地拓海、國元麻里奈、坂本恵理、桜井裕子、高橋ゆり
渡邊雅志（芸術文化学部准教授）

「空間デザインB（家具）授業成果作品」

県産杉間伐材を素材に椅子をデザイン・制作する2年生対象授業。指導は丸谷芳正芸術文化学部教授。

坂本恵理、石黒聖那、伊藤加織、岩見理子、奥野さつき、大茂谷ひかり、乙川佳奈子、加藤優、川口菜、工藤知恵、桑原海、小林茉里、松浦輝晃、千葉香保里、中山航太郎、野原美紗貴、松澤光聡、麦田志織、湯上弥生



「平和」オープニングイベントの作品制作風景（2010）